

令和6年度児童生徒の食生活等実態調査のまとめについて

ー 香川の子供は野菜不足 郷土料理・地場産物ももっと知って ー

I 調査の概要

1 調査目的

児童生徒の家庭における食生活等の実態を把握し、学校給食の食事内容の改善や食に関する指導の充実に役立てるとともに、家庭との連携を深めることにより、児童生徒の望ましい食習慣づくりを図る基礎資料を得る。

2 調査期日

令和6年6月

3 調査対象

栄養教諭または学校栄養職員が配置されている小・中学校、特別支援学校の小学校第5学年、中学校第2学年、特別支援学校小学部第5学年および特別支援学校中学部第2学年の原則として1学級の児童生徒を対象。

有効回答等

	小学校				中学校				合計			
	対象数		有効回答		対象数		有効回答		対象数		有効回答	
	学校	人員	人	%	学校	人員	人	%	学校	人員	人	%
特別支援学校	(5) [†]	25	25	100.0	6	43	40	93.0	6	68	65	95.6
市町等	49	2537	2239	88.3	23	1518	1292	85.1	72	4055	3531	87.1
合計	49	2562	2264	88.4	29	1561	1332	85.3	78	4123	3596	87.2

† 特別支援学校中学部で校数で計上(中学校6の内数)

4 調査内容

食習慣等の状況

(生活習慣、朝食、間食、野菜摂取、共食、不定愁訴、食文化の認知状況等)

5 調査方法

1人1台端末を用い、香川県電子申請システムにより児童生徒がアンケートに回答。

6 解析方法

統計解析はエクセル統計を用いた χ^2 検定を行った、有意水準を5%未満。 χ^2 検定で有意な場合は、調整済み残差によって有意なセルを判断。

II 調査結果の概要

1 朝食を毎日食べていたのは小学生9割、中学生8割程度

・朝食摂取は、起床時刻、就寝時刻と有意に関連していた。

2 朝食を共食していたのは小学生6割、中学生5割程度、夕食は小中学生9割程度

・朝食での共食は、小中学校とも食事のあいさつ、だるさや疲れやすさ、やる気が起こらない、イライラすること、食事が楽しい、野菜摂取量、郷土料理の認知、地場産物の認知と有意に関連していた。

・夕食での共食は、小中学校とも食事のあいさつ、だるさや疲れやすさ、やる気が起こらない、食事が楽しい、郷土料理の認知と有意に関連していた。

3 野菜料理を5皿以上食べていたのは1割程度

・野菜の摂取量は、小中学校とも好き嫌い、朝食の内容と有意に関連していた。

4 郷土料理・地場産物を知っていたのは5割～6割程度

・知っている郷土料理、地場産物名の回答には、地域による特色が見られた。